令和４年度
第３学年
第１回進路説明会資料

令和４年６月１５日（水）

連雀学園三鷹市立第一中学校

３年　　組　　番 氏名

目　次

1　卒業後の進路選択・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３
　１．中学校を卒業する意味
　２．保護者の方へ

2　中学校卒業後の進路・・・・・・・・・・・・・・・・・・４

3　進路先の種類と内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・６
１．高等学校について
２．高等専門学校について
３．専修学校・各種学校について

4　入試制度について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９
１．都立高校
２．私立高校
３．国立高校

5　奨学金制度について・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２

6　進路決定に向けてのポイント・・・・・・・・・・・・・・１３
　１．自分にとっての良い学校
　２．学校選びのポイント
　３．進路決定への主な流れ
　４．学習の進め方
　５．まとめ・確認・その他

参考資料　入試でよく使う用語・・・・・・・・・・・・・・１７

1　卒業後の進路選択

１．中学校を卒業する意味

　中学校までは、教育を受けることは、みなさんの権利であり、同時に保護者の方の義務でもありました。しかし、卒業後に教育を受けることは、“契約”です。契約とは、お互いの自由意思に基づいて交わす約束という意味です。未来の日々は、権利でも義務でもなく、契約を交わす両者の意思によって決まります。

　そのため、中学校卒業後の進路決定には、自分の意思をきちんともつことがなによりも大切です。遠い将来の自分を想像することは、楽しくわくわくします。しかし、期待する自分自身を現実のものにしていくためには、期待し思うだけでは不十分です。相手との契約を成立させてはじめて実現します。ですから、自分としっかり向き合い、自分を知り、自分の力を高める努力をしていかなければなりません。そして、自分の人生を選択し、決定していかなければなりません。それは、人生の難しい関門であり、一人の人間として大きく成長するチャンスでもあります。しっかり立ち向かってください。そして、３月には、みなさん一人一人が、自分の意思でしっかりと契約を交わして、希望に胸をふくらませてそれぞれの進路先へと巣立つことを願っています。

２．保護者の方へ

(1) 本人に行動させる。過度の手出し口出しは慎む。

　これから契約社会に踏み出して、契約を成立させ自分の人生を生きていくのは、お子さん自身です。一人の個人としてお子さんを尊重し、未熟ながらも迷い戸惑い、でも前進しようともがいているお子さんを見守ってあげてください。人生の教官として適切なタイミングで冷静なアドバイスをしていただきたいと思います。現在の学力はもちろんですが、本人の性格や行動、興味、関心なども考えて、選択していけるように導いてあげてください。

(2) 身勝手な行動には、迷わずブレーキを踏む。

　個人として尊重するという姿勢は大切なことですが、お子さんはまだまだ未熟な未成年です。本人もプレッシャーに負けて、いけないと思っていても、つい“気が緩み、楽な方に流されたり、手を抜いてしまったり”するかもしれません。その時には、本気で叱ってあげてください。迷わずブレーキを踏んで、お子さんを守り、その方向を修正してあげるのも、親としての大切な役目だと思います。

(3) 親子の相互信頼が、ゴールへと導く。

　本人の意志を尊重し、信頼を寄せてあげることが大切だと思います。相互信頼を基盤として本人と保護者の合意ができるまで十分話し合って、最終的な決定をしてください。

(4) 温かい家庭の“灯”をお子さんに。

　生徒にとって学習は生活の中の大きな一部分です。学校から帰ったお子さんがほっと心を安め、勉強の疲れや受験の心配を癒すことができるのは、温かい家庭の“灯”です。受験生だからといって特別扱いして過干渉・不干渉にするのではなく、家庭の役割もきちんと与えつつも、家庭がお子さんにとっての安心できる心地よい居場所になるように、心がけてあげてください。

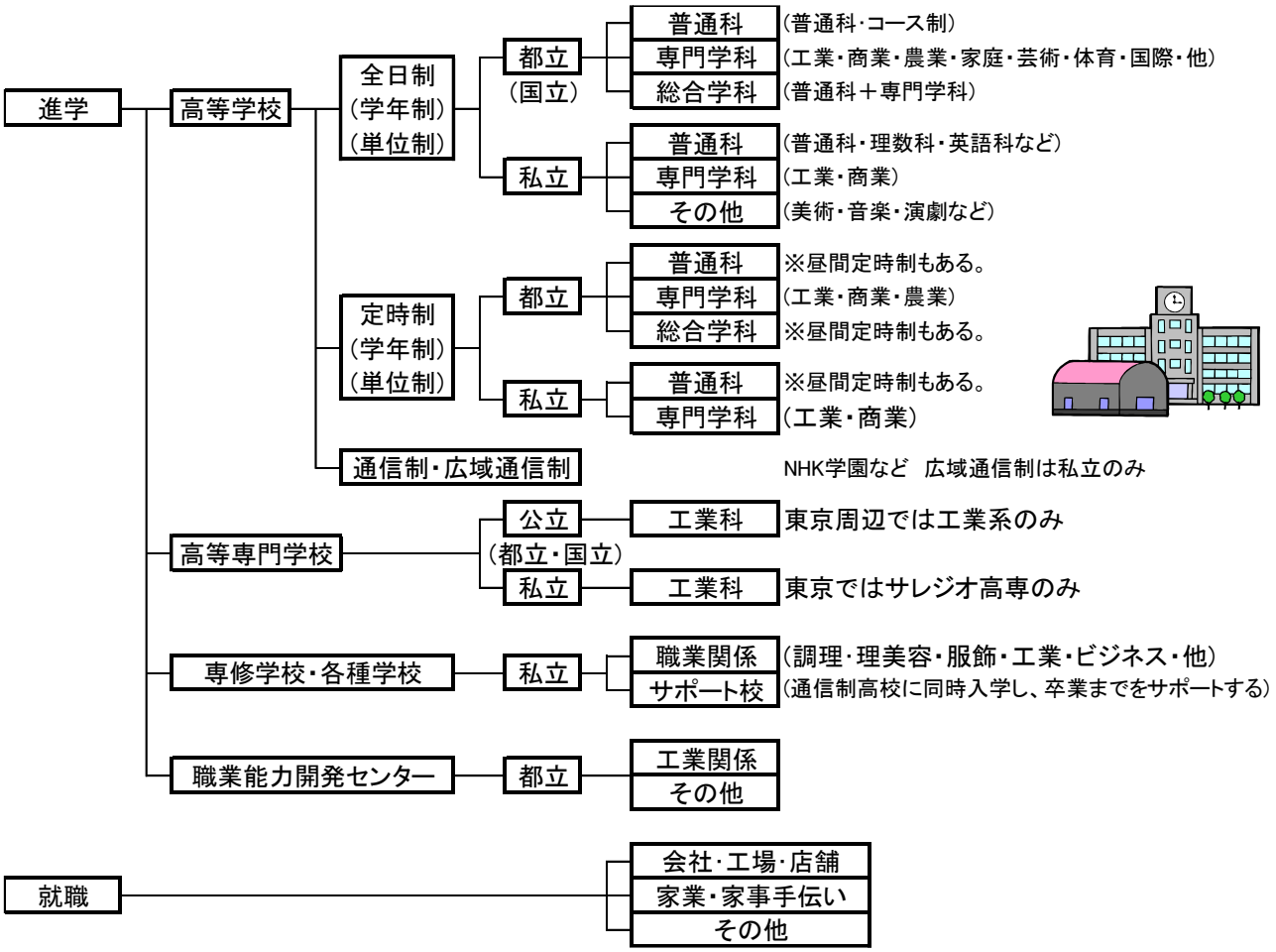
(5) 情報ばかり見て、『我が子を見ず』にならない。

　特に２学期以降の「受験期」は、本人も家庭も過敏になりがちです。そんな時こそ、ご自分のお子さんが、何を考え悩み苦しんでいるのかを理解してあげてください。不確かな情報に左右されたり、根拠のない噂を信じて、それを無意識のうちに広めたり、無用な動揺を起こすことは、皆で慎みたいものです。また、一人一人の生徒は、精一杯努力した上で、教育方針や校風を調べ最も自分にふさわしいと思える学校を選びます。高校に対する無責任な批評は、厳に避けてください。

2 中学校卒業後の進路

中学校卒業後の進路は、大きく分けて進学と就職になります。ここでは進学を中心に説明します。就職を希望する場合は、原則として職業安定所を通して進めていきますので、担任にご相談下さい。

進学と言っても、下図のようにさまざまな選択肢があります。それぞれの特長などを良く理解して、自分に合った進路を選択することが大切です。



参考資料

連雀学園三鷹市立第一中学校　令和３年度　卒業生進学先一覧

令和４年３月３１日現在

公立（都立・他県　高等学校等）	男	女	計
都立青山高等学校	1		1
都立井草高等学校	1		1
都立永福学園	1		1
都立荻窪高等学校	2		2
都立小台橋高等学校		1	1
都立片倉高等学校（造形美術）		1	1
都立桐ヶ丘高等学校		1	1
都立工芸高等学校	1	1	2
都立小金井北高等学校		1	1
都立国分寺高等学校		2	2
都立狛江高等学校	1		1
都立駒場高等学校（普通）	3	2	5
都立鷺宮高等学校		1	1
都立石神井高等学校	2	2	4
都立新宿高等学校	1	4	5
都立神代高等学校	5	1	6
都立杉並高等学校	8	3	11
都立杉並工業高等学校	3		3
都立杉並総合高等学校		3	3
都立砂川高等学校	1		1
都立世田谷泉高等学校	3	4	7
都立世田谷総合高等学校		2	2
都立総合芸術高等学校（美術）		1	1
都立総合工科高等学校	1		1
都立第四商業高等学校		1	1
都立立川高等学校（普通）		3	3
都立田無高等学校		1	1
都立多摩科学技術高等学校	4		4
都立千歳丘高等学校		1	1
都立調布北高等学校	3	4	7
都立調布南高等学校		1	1
都立豊多摩高等学校	2	4	6
都立西高等学校	4	8	12
都立農業高等学校		1	1
都立農芸高等学校	1		1
都立八王子桑志高等学校		1	1
都立東村山高等学校		1	1
都立東大和高等学校		1	1
都立日野高等学校		1	1
都立府中東高等学校	6	1	7
都立保谷高等学校		2	2
都立武蔵丘高等学校		1	1
都立武蔵野北高等学校	4	2	6
都立芦花高等学校	2	5	7
都立若葉総合高等学校	1	1	2
岩手県立葛巻高等学校	1		1
＜国立＞			
東京工業大学附属科学技術高等学校	1		1
47	63	70	

専修学校・その他	男	女	計
武蔵野東高等専修学校	3	1	4
野田鎌田学園杉並高等専修学校	1		1
東闘東馬事高等学院	1		1
3	5	1	

	男	女	計
公立（都立・県立・国立高等学校等）	63	70	133
私立（高等学校・高等専門学校）	43	62	105
専修学校・その他	5	1	6
未定	1		1
合計	112	133	245

国公立（54％）、私立（43％　うち28％は通信制）

※前年度　公立（50.4％）、私立（48.4％　うち5.6％は通信制）

私立（高等学校・高等専門学校）	男	女	計
岩倉高等学校	1		1
開成高等学校	1		1
関東国際高等学校	1		1
共立女子第二高等学校		1	1
錦城高等学校	2		2
國學院高等学校	2	1	3
国際基督教大学高等学校		2	2
国士舘高等学校	1		1
実践学園高等学校	1	2	3
聖徳学園高等学校		1	1
SDH昭和第一高等学校		2	2
昭和第一学園高等学校	2		2
女子美術大学付属高等学校		1	1
白梅学園高等学校		1	1
杉並学院高等学校	2		2
成蹊高等学校	1	1	2
大成高等学校	4	3	7
大智学園高等学校		1	1
大東学園高等学校	1	1	2
拓殖大学第一高等学校		2	2
立川女子高等学校		1	1
中央大学杉並高等学校		1	1
中央大学附属高等学校		1	1
帝京大学高等学校		1	1
東京音楽大学付属高等学校		1	1
東京成徳大学高等学校		1	1
東京農業大学第一高等学校		2	2
東京立正高等学校	3		3
桐朋高等学校	2		2
桐朋女子高等学校		1	1
日本学園高等学校	1		1
日本工業大学駒場高等学校		1	1
日本体育大学荏原高等学校	1		1
日本大学櫻丘高等学校		3	3
日本大学第二高等学校	1		1
日本大学鶴ケ丘高等学校	3	2	5
八王子学園八王子高等学校		2	2
広尾学園小石川高等学校		1	1
富士見丘高等学校		1	1
瀧村女子高等学校		1	1
文化学園大学杉並高等学校	3	5	8
宝仙学園理数インター		1	1
堀越高等学校	1		1
明星学園高等学校		1	1
武蔵野大学高等学校		1	1
明治学院高等学校		1	1
明治学院東村山高等学校	1		1
明治大学付属明治高等学校		1	1
明星高等学校		2	2
目黒日本大学高等学校		2	2
目白研心高等学校	1	3	4
早稲田大学高等学院	1		1
オイスカ浜松国際高等学校		1	1
須磨学園高等学校		1	1
日本大学明誠高等学校	1		1
立教新座高等学校	1		1
矢板中央高等学校	1		1
＜通信制＞			
ＮＨＫ学園高等学校	1		1
飛鳥未来高等学校	1		1
第一学院高等学校		3	3
中央国際高等学校	1	1	2
61	43	62	

3 進路先の種類と内容

１．高等学校について

（１）課程

①全日制：中学校と同様、午前・午後と授業が組まれます。修業年限は３年です。

②定時制：夜間又は、昼間の限られた時間に授業が行われます。修業年限は原則４年。３年で卒業できる場合もあります。新たなタイプの昼夜間定時制高校では、午前・午後・夜間に授業が行われます。

③通信制：自宅等で学習しレポートなどを提出します。ラジオ・テレビ・インターネットを利用するものもあります。多くの学校ではスクーリング（登校日）も設けています。最近はほぼ毎日登校するタイプもあり、<u>生徒の希望で選択できる学校が多くなっています。</u>

（２）学年制と単位制

①学年制：中学校と同じく、学年ごとに学習する教科・科目が決まっています。１年ごとに必要単位を修得すると進級できます。修業年限は、全日制は３年、定時制は４年です。

②単位制：３～４年(定時制)の間に決められた単位を修得すると卒業できます。基本的に学年はなく自分で必要な教科(単位)を選んで学習します。

（３）国立・都立・私立

①国立：都内にある国立の高校は、すべて大学の付属で、本来、大学の研究校として設置されたものです。一般的に入試が非常に難しく、また大学受験に主眼を置いている所も多いです。なお、付属といっても、大学入学の特典はまったくありません。

②都立：学区はなく、通学可能であれば、どこでも受検できます。現在、非常に多様化が進んでおり、さまざまなシステムや学科があります。特色としては経費が安く、一般的に私立より校則がも穏やかで、生徒の自主性に任せるところが多いですが、学校によって生活指導の力の入れ方は異なります。

③私立：学区はなく、原則、どこでも受験できます。東京以外の学校も受験できます。国・公立より経費が高く、各学校によって教育方針や教育内容に様々な特色があります。また、一般的に都立より校則が厳しいところが多いようです。受験に当たっては、各学校の特色をよく調べる事が大切です。特色として主な項目をあげると次のようなものがあります。

・宗教教育　・中高一貫教育　・大学附属　・男女別学　・部活動
・特色ある行事や教育方針　・充実した設備

※大学付属：都内には私立大学も多く、たくさんの付属校があります。付属校から大学への進学はおおむね、次のようになっています。

☆原則として、全員が大学に進学できる。
☆在学中の成績がある基準以上の者だけが推薦される。
☆付属校専用の試験によって、一定の成績を上げた者が、入学を許可される。
☆一般の受験生と同じように受験するが、いくらか優遇される。
☆大学の学部の選択は、成績上位者は第１希望で入学できるが、あとは第２・第３希望になることが多い。

大学付属校を選ぶ時には、その大学に進学することを考えて、自分の学びたい学部や学科があるかなど、大学の特色も調べておくことが必要です。最近は他大学への進学にも力を入れている学校が多く見られます。

④経費について

A．授業料の負担軽減

※資料「私立高校には学費負担を軽減する制度があります」をご参照ください。

B．都立高校・都内私立高校の初年度経費

都立高校（全日制）		令和４年度 都内私立高校（平均額）	
入学料	5,650円	入学金	254,277円
授業料	118,800円	授業料	474,897円
積立金	約77,200円	施設費	37,067円
生徒会費	約5,000円	その他	179,280円
ＰＴＡ会費	約4,500円		
教科書・副教材	約35,000円		
制服等	約40,000円		
体操着・シューズ等	約30,000円		
合計	約320,000円	合計	945,522円

※この授業料から支援金・助成金額が除かれます。

（4）学科

都立高校には、普通科(コース制)、専門学科(農業・工業・商業など)、総合学科など多くの学科が設置されています。普通科の中には進学指導重点校やチャレンジスクール、エンカレッジスクールといった特色のある教育活動を行う学校もあります。それぞれの特色は、「東京都立高等学校に入学を希望する皆さんへ」に詳しく紹介されています。

私立高校にも普通科の他にも工業科、商業科、英語科、理数科などの学科や、特進コース、福祉コースなどのコースを設けている学校もあります。

２．高等専門学校について

修業年限５年間で、工業に関する学科を中心に、高等学校の専門学科よりも、より専門的に学習します。卒業後は短大卒業程度として就職する人が多いですが、大学３年への編入試験を受けることもできます。都立の高等専門学校は、都立高校より先に入試があります。両方に出願できますが、都立の高等専門学校に合格した場合、都立高校は受検できません。

・産業技術高等専門学校（都立）
　品川ｷｬﾝﾊﾟｽ…機械ｼｽﾃﾑ工学ｺｰｽ・生産ｼｽﾃﾑ工学ｺｰｽ・　電気電子工学ｺｰｽ・電子情報工学ｺｰｽ
　荒川ｷｬﾝﾊﾟｽ…情報通信工学ｺｰｽ・ﾛﾎﾞｯﾄ工学ｺｰｽ・航空宇宙工学ｺｰｽ・医療福祉工学ｺｰｽ
・東京工業高等専門学校（国立）
　機械工学科・電気工学科・電子工学科・情報工学科・物質工学科など
・サレジオ高等専門学校（私立）
　デザイン学科・電気工学科・機械電子工学科・情報工学科など

３．専修学校・各種学校について

（1）高等専修学校

専修学校は一定の基準にそって教育課程を編成し、認可を受けたもので、中学卒業で入学できるのは高等課程です。多くは職業につながるような知識や技能の習得を目的としています。最近では、専修学校の高等課程でも大学の受験資格が取得できる所や、通信制の高校に同時に入学することで、高校卒業の資格を得られるところ(技能連携校)もあります。

＜大学受験資格や高卒資格が与えられる高等専修学校の例＞

学校名	科	地区	大学入学資格付与指定校等
野田鎌田学園杉並高等専修学校	調理高等科・情報高等科	杉並区	指定校、連携先：あずさ第一高校
武蔵野東高等専修学校	総合キャリア学科	武蔵野市	指定校
東放学園高等専修学校	芸術科	新宿区	指定校
日本芸術高等学園	演劇・音楽科	国分寺市	指定校
国際製菓専門学校高等課程	製菓製パン師科	立川市	指定校、連携先：東海大望星高校
東京多摩調理製菓専門学校	調理師科	多摩市	指定校、連携先：向陽台高校
大竹高等専修学校	美容師科・調理師科	八王子市	指定校

※技能連携が必修の場合、連携先の検定料や授業料がかかります。

（2）各種学校

各種学校には様々なものがあり、いずれもある専門の知識や技術を身に付ける事を目的としています。特に基準はありません。入学にあたっては内容等をしっかり調べる必要があります。

（3）サポート校・広域通信制高等学校

サポート校は通信制高等学校卒業や、高等学校卒業程度認定試験（旧・大学入学試験検定）合格のための学習をサポートする施設です。通信制の高等学校に同時に入学し、普通の高等学校と似た学習や生活をしながら、高校の卒業資格を取得させる学校もあります。広域通信制高等学校は、通信制高等学校系列の学習センターでの学習を通じて、通信制高校の卒業資格を得る施設です。

4 入試制度について

１．都立高校

（１）入試日程（注：以下の日程は昨年度のものです。）

①推薦に基づく選抜

願書受付　郵送　１月１２日(水)～１７日（月）必着
面接等　１月２６日(水)・２７日(木)
発表　２月　２日(水)

②学力検査に基づく入試(第一次募集・分割前期)　※定時制も日程は同じだが、時間は異なる。

願書受付　郵送　１月３１日(月)～２月４日(金) 必着
学力検査　２月２１日(月)　※海外帰国は２月４日(金)・７日（月）窓口出願、
発表　３月１日(火)　受検日２月１５日（火）、発表日２月１７日(木)

③学力検査に基づく入試(第二次募集・分割後期)

願書受付　３月４日(金)　※定時制二次は3月２２日(火)
学力検査　３月９日(水)　※定時制二次は3月２５日(金)
発表　３月１５日(火)　※定時制二次は3月２８日(月)

（２）推薦に基づく入試（推薦入試）

①一般推薦と文化・スポーツ等特別推薦があります。
②第1志望であることが条件です。合格した場合、必ず進学する学校となります。
③選考：以下の各得点を総合して合格者を決めます。
☆調査書点　評定又は観点(点数化)を各高校が選択。上限は50%。
☆集団討論・個人面接点　満点は各校で異なる。
→集団討論は、部活・クラス活動・行事などの学校生活における問題事項の対処法や、携帯電話利用上の問題などの日常生活の問題、時事問題と高校生活を関連付けたテーマについて討論させる。
☆小論文又は作文点　満点は各校で異なる。
☆実技検査点　学校・学科による。　※自己ＰＲカード…面接資料となる。
④推薦枠上限は普通科20%、専門学科30%。ただし、学校によって異なる。

（３）学力検査に基づく入試

①選考：以下の各得点を総合して合格者を決めます。
☆調査書点
☆面接点
☆小論文又は作文点
☆実技検査点
☆学力検査
●１次募集は５教科(国・数・英・社・理)、２次募集は３教科(国・数・英)です。
●学力検査の自校作成を実施する学校
全日制高校のうち以下の１０校では、学力検査問題を自校で作成します。これらの学校については、自校で作成した問題(国語、数学、英語)と都立高校共通問題(社会、理科)で学力検査を実施します。

	学校名
自校	日比谷高校、戸山高校、青山高校、西高校、八王子東高校、立川高校、国立高校、新宿高校、墨田川高校、国分寺高校

※国際高校は英語のみ自校作成。また、一部の定時制高校でも自校作成を実施。

●学力検査と調査書の得点の合計（1000点満点）＋ESAT-J結果（２０点満点）で総合得点（１０２０点満点）を計算します。

項目	来春　令和５年度入試	
学力検査	全日制 一次・前期→５教科 二次・後期→３教科 ※面接・小論文(作文)・実技検査は学校により実施	定時制 一次・前期→３教科～５教科で実施 二次・後期→３教科 ※面接は全校で実施。小論文(作文)・実技検査は学校により実施
比率	全日制　学力検査の得点：調査書点 一次・前期→「７：３」 二次・後期→「６：４」	定時制　学力検査の得点：調査書点 一次・前期→「７：３」又は「６：４」 二次・後期→「６：４」又は「５：５」
換算内申	＊５教科受検の場合 学力検査を実施しない実技４教科の評定を２倍する。 →換算内申の満点は　（５×５科）＋（５×４科）×２ ＝ ６５ 国,数,英,社,理　音,美,体,技家 ※比率が「７：３」の場合、この６５点満点を３００点に換算します。	

※特定の教科の得点に決められた倍率をかけて、配点を多くする「傾斜配点」を実施する学校もあります。

※エンカレッジスクール（例　東村山高校、秋留台高校、中野工業高校など）は学力検査を実施しません。チャレンジスクール（例　世田谷泉、八王子拓真チャレンジ枠など）は学力検査と調査書を用いない選抜方式で行います。

※分割募集は、あらかじめ定員を２つに分けて募集します。また、募集で定員に満たなかった学校のみ第二次募集を行います。

※自己ＰＲカードは、面接を行う学校では出願時に提出し面接資料となります。面接を行わない学校は入学手続き後に提出します。

●解答はマークシート方式

共通問題を使用して学力検査を実施する全ての学校で「マークシート方式」による入試を実施しています。記号による解答部分のみマークシート方式で、国語や英語の作文、社会や理科での説明や作図などの出題は、記述方式です。

②志願の変更：全日制は出願後、１回に限り志願の変更をすることができます。変更は、異なる学科・コース間でも可能ですが、一部制限が有ります。

（4）海外帰国生徒対象入試

海外帰国生徒対象の選抜を実施する都立高校は、三田高校、竹早高校、日野台高校、国際高校の４校です。出願の資格は在住期間によって区分されます。

①２年以上３年未満…入学日までに、帰国後１年以内
②３年以上４年未満…入学日までに、帰国後２年以内
③４年以上　　…入学日までに、帰国後３年以内

２．私立高校

（１）推薦入試

①出願資格(条件)

第１志望であること、合格したら必ず入学することが条件です。１月中旬に合格が決りますが合格後の変更はできないので、よく考えて希望してください。

②推薦基準

多くの学校が、成績等の推薦の基準を設けています。推薦の基準は要綱等に明記されることになっています。一部の私立学校では、特定の地域を対象に、基準の一部優遇をしているところもあります。詳しくは該当校に問い合わせをしてください。主な基準は次の通りです。

(１)推薦にふさわしい人物であり、校長の推薦を受けられること。

(２)成績の基準は、調査書の評定の得点です。(私立の場合は評定を単純に合計します)９科計、５科計、３科計など様々です。また、特定の教科が一定の成績以上であること。また、評価に１や２がないことなども条件となる場合があります。

(３)大部分の学校が出欠や遅刻回数の条件を定めています(例　３年間で１０日以内や、３年時の出欠席が評価（加点）されるなど)。ただ、正当な理由のある場合(入院等)は考慮されます。

(４)生徒会活動や部活動、一定の資格(英検、漢検、数検など)などが、評価される場合もあります。

(５)スポーツ推薦の場合、運動技能やそのスポーツでの実績(大会等)が重要な条件となります。実績は通常、都大会出場以上の実績・技能が要求される場合が多いです。一部の学校では、部活動の体験や見学の誘いが来始めているので、関心のある方は該当する高校の情報を集めてください。通常は、高校入学後の３年間そのスポーツを続けることが条件です。

③入試日程

☆入試日　　１月中旬

☆入学手続き　合格発表後２～３日以内　※費用の延納は認められません。

④合否の判定

中学校からの調査書、推薦書と面接、作文等の結果を総合的に判断して決定します。

※指定校推薦について

昨年度は本校で指定校推薦枠を２校設けていました。

①明治大学付属明治高等学校

②大成高等学校

（２）一般入試

①受験資格

男女別以外は、原則として誰でも受験できます。

②入試日程(例年)

東京都　２月１０日～　※複数校を受験する場合には、日程をよく調べてください。

③入試科目

☆国・数・英の３教科が圧倒的に多いですが、５教科や２教科の学校もあります。

☆大部分の学校が面接を行ないます。面接は本人のみやグループ面接の場合がほとんどですが、保護者同伴で面接を行なう学校もあります。

④合否の判定

調査書・学力検査・面接の結果を総合的に判断して行なわれますが、多くの学校が、学力検査の結果にウエイトを置いています。

⑤合格発表と手続き

☆合格発表は入試日から１～３日後位に行なわれます。

☆手続きは合格発表後２～３日中の場合が多いですが、公立高校を第１志望としている場合は、公立高校の発表まで手続きを待つ学校（延納制度）もありますが、各学校によって対応が異なるので注意が必要です。

⑥合格の可能性

☆当日の得点で合否が決定されますので、合格の可能性を正確に予測することは困難です。

☆高校受験案内や外部模試等で示される偏差値による合格の可能性(%)は、昨年までの実績による目安であって、その数値があれば100%合格が保証されるものではありません。

【例】偏差値５０で、合格の可能性が６０%の場合、昨年、偏差値５０の学力をもつ人が、１０人受験して６人が合格し、４人が不合格となったということです。

（３）一般入試における第１志望優遇（単願）・第２志望優遇（併願）

☆第１志望優遇は、合格したら必ず入学すること、第２志望優遇は、第１志望（公立高校に限定する学校や他の私立高校でも認める学校があるので、事前によく調べることが大切です）が不合格の場合、原則として入学することが条件です。

☆推薦入試と同様に、成績(内申点)等の基準があります。第２志望の方が一般的に基準は高くなっています。この制度を利用して私立高校を受ける生徒が多くいます。

☆一般の受験生と同様に受験しますが、一定の優遇処置があります。ほぼ、確実に合格できる場合や、当日の得点に一定の点数を加点する場合などがあります。

☆第１志望優遇の場合は、費用の延納はできません。

（４）入試相談

☆推薦や第１志望・第２志望優遇を希望する生徒について、事前に高校側と相談をします。中学側から受験希望者を提示し、高校側は合格の可能性を提示します。

☆入試相談は、例年１２月１５日からで、多くは年内に締め切られます。

☆入試相談で、受験の希望を提示しないと、推薦入試や優遇が受けられないのが通常です。入試相談を利用する受験を考えているご家庭は、１１月の第2回目の三者面談の頃には具体的な検討と取り組みが必要になります。

３．国立高校

ほとんどが一般入試のみですが、東京工業大学附属科学技術高校には３０%の推薦枠があります。

5．奨学金制度について

現在、交通遺児育英会、あしなが育英会、財団法人東京都私学財団(東京都育英資金)の３つの団体より、案内が来ています。団体によって締め切りが異なるので、随時お問い合わせください。詳しい内容については、資料「奨学金・貸付金等のご紹介」を参照の上、担当(堀)にお問い合わせ下さるか、各団体のホームページをご覧下さい。

☆交通遺児育英会　https://www.kotsuiji.com/

☆あしなが育英会　https://www.ashinaga.org

☆財団法人東京都私学財団　https://www.shigaku-tokyo.or.jp

6 進路決定へ向けてのポイント

１．自分にとってのよい学校

よい学校 ≠ 入試のレベルの高い学校 → レベルの高い中で競い合うこともできるが
ついていけずに退学パターンも…

よい学校 ＝ 自分に合った学校 → ３年間、充実した生活が送れる学校

ただ単に、(外部の)偏差値とか、有名だからとか、一面的なとらえ方をしないで、本当に自分の目的にあった進路先はどこなのか、どこなら自分のやりたいこと、自分の理想とする高校生活が送れるのか、本当に自分の力を伸ばして、将来に結びつけていける進路先はどこなのか、などの広い視野を持って考えていくことが大切です。

２．学校選びのポイント

（１）進路の選択は、現在の自分自身を正直に見つめる

①現在の学力　②自分の性格　③体力や健康状態　④家庭の状況
⑤将来の見通し(社会人としてどのような道をめざすのか、興味のある分野は何か、そのためにどのような道筋で学んでいくのか)

これらのことを自ら振り返り、そして家族や先生との話し合いの中でアドバイスを受け、徐々に具体的な進路を考えていきましょう。進路先でどのように自分を生かしていくのか、伸ばしていくのかをよく考え、目標を定めて努力し、最終的には自らの判断で決定することが大切です。自分で選んでこそ、進路先での様々な苦難があっても乗り越えられる力となり、自信を身につけていけるのです。

（２）自分で志望する学校をよく調べる

志望校の候補になったら、必ずその学校に足を運びましょう。学校見学会、学校説明会、体験入学などの行事に積極的に参加し、自分の目と耳で学校の様子をつかむことが大切です。周囲のあいまいな噂に振り回されずに、正しい情報を得るようにしてください。以下の方法で、進路先について調べることができます。

☆「高校案内」の書物を利用する(店等で数多く売られています)。「2023 年度入試」「令和５年度入試」という表示のものです。
☆兄弟姉妹や親戚、あるいは近所の先輩などに話を聞く。
☆実際にいくつかの高校などを訪問してみる。休み中でも、事前に連絡しておけば校内を案内してくれたり、説明をしてくれたりするところもあります。
☆ホームページなどで新しい情報をいち早く得る。
◇都立高校　http://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/static/high_school/index.html
◇私立高校　http://www.tokyoshigaku.com

３．進路決定への主な流れ（進学を前提として）

（１）到達度テスト

①目的
☆１・２年の範囲も含めた学習の目標とし、学習に意欲的に取り組めるようにする。
☆３年間の学習内容をどれだけ身につけているかを自覚し、その後の学習計画や進路の選択の参考資料とします。

②教科
国語・数学・英語・社会・理科の５教科

③実施回数
６月２８日、８月３０日・３１日、１０月４日の３回を予定しています。

④範囲
範囲は原則として、１・２年の総合問題＋３年の学習したところまでです。

⑤結果の利用

学習の目標と確認が目的であり、面談の際の参考資料として活用します。結果を評定の資料としては使用しません。返された答案で、学習の状況や不十分なところを確認し、学習に役立ててください。

（2）進路希望調査

①第１回　６月（第１回面談…夏季休業中の三者面談の資料）

具体的な学校名よりも、現在考えている進路の方向性(都立・私立・学科など)や、前述の学校選びのポイントについて、自分が何を重視して学校選びをするのか、しっかり考える機会としてください。

②第２回　９月

この調査では、学校選びのポイントなどと、夏休み中の学習状況、第１回到達度テストなどを踏まえて、自分の志望校としたい学校を具体的にいくつか挙げられるようにしてください。そのために、夏休み中に各自で各進路先について調べたり、親子で話し合ったりする機会をもつようにしてください。

③第３回　１０月（第２回三者面談の資料）

第２回到達度テストや進路先訪問などをもとにして、具体的な志望校をしぼり込みます。都立中心か私立中心か、普通科か専門学科かはもちろん、受験日や推薦制度の利用などについても、具体的に考えておく必要があります。

※主な受験(検)パターン

第１志望	第２志望
都立(推薦／一次・前期)	都立(二次・後期)
都立(推薦／一次・前期)	私立(併願優遇利用)
私立(推薦／単願優遇利用)	
私立(公募推薦・一般入試)	私立(一般・併願優遇利用)
私立(公募推薦・一般入試)	都立(一次・前期)

２学期には多くの学校が体育祭や文化祭を予定しており、中学生の参観も可能なところが多くあります。また、保護者や生徒対象の学校説明会を開くところも多くあります。これらの機会を利用して、志望校の候補に考えている学校について、より深く知る機会とすると良いでしょう。

④第４回　１１月（第３回面談の資料）

志望校の最終確認になります。私立推薦、優遇制度利用については、最終的な希望になります。私立の入試相談を希望するご家庭は、面談後速やかに「希望願い」やより細かい確認事項（受験日やコース名、利用する制度など）を提出することが必要となります。

（3）三者面談

①7月２１日～２９日（土日を除く）

第１回進路希望調査や到達度テストの結果などをもとに、夏休みの学習の進め方や、志望校決定への見通しなどについて相談します。

②１１月８日～１５日（土日を除く）

第３回進路希望調査や到達度テストの結果などをもとに、志望校最終決定に向けての相談をします。基本的な受験パターンや、私立推薦や優遇制度利用の希望も伺います。

③１２月５日～１２日（土日を除く）

第４回進路希望調査や到達度テストの結果などと、本人の希望や学習状況をもとに、具体的な志望校について相談します。私立の推薦や優遇制度を利用する場合は、基本、必ずこの面談で確定します。都立の推薦についても、都立推薦入試の動きが３学期開始すぐであることから、冬季休業中に出願の準備が必要になるため、ほぼこの面談で受検校を決定します。私立の一般受験や都立の受検校は、この面談でほぼ見通しを立てます。

※随時、必要に応じて面談をしたり、相談に応じたりします。

４．学習の進め方

（１）受験までの学習計画を１学期中に立てる

☆１・２年の総復習・苦手教科の克服。
☆３年の範囲も含めた実力養成。問題練習など。
☆志望校にあわせた対策。過去問題への挑戦など。

⇩

いつ頃までに、どんな方法で学習していくか。到達度テストなどを参考に、随時修正しながら進めていきましょう。

①夏休み中は、１・２年の復習と苦手科目克服のチャンスです。何(教材)を使って、いつまでに、どこまで学習するか。教科別に具体的に計画を立てましょう。
②３年生の範囲は、今やっている授業の中でしっかり理解し、定期テストへ向けての学習で実力をつけましょう。定期テストでできなかったところは、すぐに復習して完全に自分のものにしていくこと、これが一番の早道です。授業やテスト勉強をいいかげんにしておいて、直前になってから、あわてて復習をするのでは間に合いません。
③２学期は実力養成の時期です。３年生の範囲も含めて、問題にどんどんチャレンジしましょう。ただし、できなかったところ、間違えたところをそのままにせず、必ずわかるまで復習をすることが大切です。自分の力だけではわからないところは、学校の先生に積極的に質問し、教えてもらいましょう。遠慮はいりません。
④志望校が固まってきたら、その学校の過去問題に挑戦するのがよいでしょう。問題の傾向を知り、合格の可能性を探る手がかりにもなります。過去問題は各学校で学校案内などと一緒に売っているところもあります。また、書店でも手に入ります。

（２）評価・評定（調査書点）の重み

都立高校の入試及び私立高校の推薦(各種優遇含む)では、評価・評定が大きなウエイトを占めます。定期テストだけでなく、授業での取り組み、提出物、実技テスト、作品など、日常の授業や学習にしっかり取り組むことが、自分の希望実現への大きな鍵となります。

５．まとめ・確認・その他

（1）志望校を決める時には、学力だけにとらわれないで、高校生活への希望や将来の進路なども考えて決定してください。

（2）決めるにあたっては、自分の希望を中心に、家族でよく相談をしてください。また、担任の先生ともよく相談をしてください。アドバイスはしますが、最終決定は本人と家族でしてください。

（3）志望する学校は、事前に必ず見学をしましょう。

（4）普通科か専門学科か、都立か私立かなど、どちらを主に考えていくかは、早めに（２学期早々には）目処をつけましょう。

（5）塾や夏に講習会などを利用する人も多いと思いますが、次の点には注意が必要です。

①ただ通っているということで、勉強をしていると思い込まないことです。与えられたものだけでなく、自分の力で学習していくことが大切です。

②塾や講習会の学習内容や進度が自分にあっているか、生活のリズムが乱れていないか。自分にあっていない場合、効果が上がらないだけでなく、かえってマイナスになる場合もあります。

③自分の進路希望と塾等での学習内容があっているか、自分は都立志望なのに、塾では私立有名校対策クラスでは目的に合っていません。選択する段階でよく検討し、どのような内容に取り組むのかなど予定表を確認して、主体的な判断で決めましょう。友人と一緒というのも、長所と短所がありますので、よく検討してください。志望先の決定にあたっても、塾などの指導に振り回されない、あくまで自分の希望を大切にしてください。「利用はしても利用されない」姿勢が必要です。

（6）場慣れする意味も含めて外部模試等を受験する人も多いと思います。その結果や受験関係の書籍で示される偏差値による合格の可能性（％）は、目安であって、その数値があれば 100％合格が保証されるものではありません。

（7）スポーツ推薦や文化活動の推薦は、高い競技レベルもしくは技能レベルが要求されるとともに、入学後、そのスポーツや文化活動を継続することが条件になります。

（8）推薦は、三鷹一中の校長が推薦に値する生徒として保障する制度です。学力だけでなく、行動や服装・生活面でも、しっかりした生活を送ることが大切です。学年当初の進路ガイダンスや保護者会でお示しした一中の「推薦受験(検)資格の認定について」を、もう一度良く読んでください。

（9）廊下や教室には、高校等から送られてきたポスターやパンフレット、説明会等のお知らせがあります。日々更新されているので、見落としのないようにしてください。あくまで基本は、他の人に探してもらって情報を得るのではなく、自分から見つけていく積極性をもつようにしましょう。

入試でよく使う用語

素内申

調査書の各教科の評定の数字を総計した数値（満点４５）
主に、私立高校の推薦入試や、各種優遇を受ける際に基準として使われる。

換算内申

調査書の各教科の評定の内、一部を換算して総計した数値（満点６５）
主に、都立高校の調査書点の計算に用いられる。

推薦基準（優遇基準）

高校側が示す、出願条件となる基準の数値。ほとんどの私立高校では素内申で提示される。学校によっては、諸活動の記録によって加点措置がある。

合格基準

その学校に合格するための学力的な目安となる数値。合格最低点はその年度の受験結果で、これとは異なる。

志願倍率（応募倍率）

志願者（応募者）÷募集定員数

志願（応募）段階での見かけ上の倍率。

受験倍率

受験者数÷募集定員数

実際の受験時の倍率。募集定員数と合格者数は必ずしも一致しない。

実質倍率

受験者数÷合格者数

受験時の実際の倍率。

適性検査

美術、音楽、体育等の専門的な学科やコースで行う実技試験のことを指していたが、最近の私立推薦入試では、学科に関する小テストの意味合いが強い。

併願校

第一志望校に対し、第二志望以下の学校。入試日程が被らない限り、何校設定してもよい。

併願優遇校

第一志望校に対し、第二志望以下の学校。その学校より上位の志望校に不合格だった場合、進学するという条件で優遇を受ける学校。基本的に１校のみ。

公立併願

併願優遇を受ける際の条件として、公立（都立）高校に不合格だった場合に進学することを約束する。他の私立高校は受験できない。

公私併願

併願優遇を受ける際、公立・私立を問わず、その学校よりも上位の志望校に不合格だった場合に進学することを約束する。入試日程が被らなければ、他に何校受験してもよい。